

吉田西部地区 史跡・遺跡 散策コース

所要時間 1時間 56分

スタート 吉田西部地区まちづくり協議会

約5分 ①畑中貝塚

約22分 ②月山神社

約50分 ③尊久老稲荷神社

約17分 ④河原横穴墓群

約8分 ⑤長井戸古墳群

約5分 ⑥吉田老人憩いの家 (旧吉田村役場)

約6分 ⑦吉田小学校正門前 (宮前遺跡標柱)

約3分 吉田西部地区まちづくり協議会



①畑中貝塚

縄文時代後期から晩期（今から4000年～2500年前）にかけて営まれた縄文人たちの生活場所で、貝殻や食べかす、不要となった物（土器や石器など）を捨てたゴミ捨て場の役割があった。北の椿貝塚（逢隈上郡）、南の中島貝塚（山元町浅生原）と同時期の遺跡で、関わりがあったものと考えられる。

②月山神社

勧請年月日不明だが、江戸時代の記録が残っていることから古くから崇敬を集めていたものと考えられる。かつては吉田西部地区の多くの家が氏子となっており、村内外からも多くの参拝者があった。

③尊久老稲荷神社

陸奥国守に赴任してきた小野篁がこの地に立ち寄った際に、真っ黒な狐と出会い、祠を建てたのが始まりだという。その後、伊達成実が神社に「尊久老稲荷大明神」と記した神旗を贈り、巨理伊達家から大切にされた。また、この地は、巨理伊達家の練兵場となった場所で、戊辰の際の出陣もここに集合して出陣したという。さらに、桜の名所としても古くから知られ、東側神社入口の鳥居脇には、樹齢150年を超えると考えられるエドヒガン（通称「種時桜」）が咲き誇り、神社へ通じる通路はソメイヨシノが美しい。

④河原横穴墓群

古墳時代（4～7世紀頃）、その地域の支配者の墓として各地に高塚古墳（土を高く盛った墓）が造られました。古墳時代後期ごろ（6世紀後半）になると、これに代わって凝灰石などの丘陵斜面に穴を掘って墓とした横穴墓が造られました。横穴墓群は数十基単位で見つかる遺跡が多く巨理町で見ついている11ヶ所の横穴墓群の中からも50～60基ほどがみついています。河原横穴墓群では現在までに3基ほどみついています。さらにみつかる可能性が考えられます。南の畑からは須恵器（すえぎ）という土器もみついています。

東街道

鎌倉時代から室町時代にかけての主要道路。平安時代の貞観津波から外れたラインに設けられたという説がある。吉田から長瀬にかけてはこの道路周辺に遺跡が多く、古代はこの周辺地域に多くの村があり、多くの人が住んでいたことが分かる。

⑤長井戸古墳群

古墳時代の墓（5世紀頃）当時は村の長クラスの人しか墓を造ることが許されなかったため、この周辺の村長の墓と考えられる。円墳4基、方墳1基、前方後方墳1基の計6基が確認されている。なお、町内で高塚式古墳（土や石で盛った墓）は長井戸古墳群と吉田大塚古墳しか発見されていないため、貴重である。

⑥吉田老人憩いの家（旧吉田村役場）

明治22年の町村合併で吉田村と長瀬村が合併し、この地が吉田村役場となった。敷地に残る桜は吉田村役場の面影を残す。

⑦宮前遺跡標柱（吉田小学校前）

古墳時代から平安時代にかけての集落跡。昭和48年の発掘調査で50軒以上の住居跡が見つかった。近くにある長井戸古墳群とも関連があるものと考えられる。



月山神社



問合せ：吉田西部地区まちづくり協議会
電話 0223-36-8450

至 山元